

喜多康枝

明美先生に家読のモデル家族にとお話を
いただいたのが、五月の末日でした。私自身
絵本が大好きだという事と、その日は仕事が
お休みだったこともあり、家に帰ってすぐには
長男と相談しながら家読ファイルを作りまし
た。

我が家は長男が二歳を迎えた頃から、ク
リスマスや誕生日等お祝いの時は、親からの
プレゼントは絵本という約束があります。一冊ずつですが、何かの度に買います。

今では本棚の絵本も五十冊を超えた。まずそれを順番に読み返すことから始めた。参加者の中から、その日読む絵本を選ぶ人を決め、一行読み一ページ読み、疲れるまで読んで次の人に交代、役柄別に等、子供達の提案をもとに様々な方法を試しています。今まで絵本の読み聞かせは私の担当のようになっていたが、私がそれがあ当然と思つてからは、子供達にいてのままで促されお父さんも参加してくれるようになりました。

ました。今では、長女が先に立てて、今日は、
ろうよ」とか、最近やめてないけど、今度いつ
にする?と、自ら皆を誇うようになります。まし
来年一年生になる長女ですが、ファイアルの記
入自分でやりたくて、必死に平仮名の練習
をしています。私がかかるもやつて、いる日もあ
り、家事をしながらその姿を見るのもまた、私
の楽しみのひとつです。

家読は、コミュニケーションをはかる場で

あり、子供達の思いや素晴らしさを知り、発見する場であり、私達親の考えを子供達に伝える二つのできることの大切な時間だと思っています。

十五分程度の時間ではありますか、これからも続いきます。

のキヤツチボールを忘れずに、これからも継続していきます。